

# 事務室より

(H30年度 No.10)

文責 山崎理奈

今月、2年生と4年生に転入生がきました。児童数が2名増え、合計39名になりました。新しいお友だちが増え、うれしいですね。二人はすぐにみんなと仲良くなり、休み時間も楽しそうに遊んでいました。

最近よく『働き方改革』という言葉を目にしますね。先日、「校長室便りNo.20」で定時退庁のお知らせをしましたが、これも働き方改革の一環です。では、なぜ今『働き方改革』といわれているのでしょうか。



近年、教員の多忙化がメディア等によく取り上げられています。また、過労死も相次いでいます。「労働力調査」や「教員勤務時間実態調査」を見ても、学校の長時間過密労働は異常であることがわかります。

教員は、出勤後帰りの会まで空き時間なく指導をして、放課後も下校時まで加力指導などを行っています。翌日の授業の準備や提出物の作成などの様々な業務は、子どもたちが下校してからになります。(下ノ加江小学校でいうと16:30からですね)教員は「子どものため」と思うとつい頑張ってしまいます。でも、頑張りすぎて疲れたままでは、子どもたちにいい影響はありません。

産業別 1 週間の労働時間の分布		
	週60時間(≒過労死ライン)以上働いている割合	週80時間(≒月残業160時間)以上働いている割合
建設業	13.1%	1.5%
製造業	8.3%	0.7%
情報通信業	10.2%	1.2%
飲食店	28.4%	5.2%
医療業	7.5%	1.2%
国家校務	8.7%	2.2%
小学校教諭	<b>57.8%</b>	<b>2.7%</b>
中学校教諭	<b>74.1%</b>	<b>15.8%</b>

『働き方改革』は業務改善を行うことで教員の多忙化を解消し、心身ともに健全な状態で子どもたちと向き合う時間を確保すること等を目的としています。

すべては子どもたちのため。教員も子どもも元気な学校が一番です！

『うちの働き方改革』をしてみてもいいでしょうか？自分のことは自分です。例えば、朝は自分で起きる。食事の後の食器は自分の分は自分で洗う。または、洗わなくても流しに持って行く・・・など、お子さんが自分でできることは自分でするようにすると、うちの方にもゆとりができますね。

全員が宿題の提出など揃っていると、放課後残ってなくていいですね。そうすると、担任は翌日の授業の準備にも放課後すぐに取り掛かれ、子どもたちも遊ぶ時間が確保できます。win-winですね!(^^)!

